

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●阪神ジュベナイルフィリーズはスターアニスが優勝

12月14日(日)に行われた阪神ジュベナイルフィリーズ(G I)ではスターアニス(牝2歳/栗東・高野友和厩舎)が優勝しました。勝ちタイムの1分32秒6は、2023年にアスコリビチューノが記録した時計と同じレースレコードタイとなります。

●香港の国際騎手招待競走でC.ルメール騎手は8位タイ

12月10日(水)、香港・ハッピーバレー競馬場において、世界各国および香港の騎手計12名が参加する国際騎手招待競走「2025ロンドン・インターナショナル・ジョッキーズ・チャンピオンシップ」が開催されました。日本からはクリストフ・ルメール騎手(栗東・フリー)が出場し、11着、11着、9着、3着で計4ポイントの8位タイという成績。第2戦と第4戦を勝利するなど計24ポイントを獲得したライアン・ムーア騎手(英)が3度目の優勝を飾っています。

●全日本新人王争覇戦にJRAから4名の騎手が参加

2026年1月20日(火)、高知競馬場にて行われる「第40回全日本新人王争覇戦」に、JRAからは石神深道騎手(美浦・和田正一郎厩舎)、柴田裕一郎騎手(栗東・中竹和也厩舎)、長浜鴻緒騎手(美浦・根本康広厩舎)、橋本太希騎手(栗東・フリー)の4名が参加することとなりました。この競走は、初免許取得後5年以内で騎乗技術等において他の新人騎手の模範となる騎手が招待されるものです。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●全日本2歳優駿(川崎)でパイロマンサーがデビュー以来3連勝

全日本2歳優駿(Jpn I、12月17日、川崎、1,600^米)は、2番手から直線入口で先頭に立った2番人気のパイロマンサー(岩田望来騎手、牡、父パイロ)が、3番人気のタマモフリージアの追撃をクビ差凌ぎました。単勝1.9倍で1番人気のベストグリーン(北海道)は3着、ライフオブラクーンは6着、フルールドールは7着、逃げたイダテンシャチョウは8着でした。

●ラブミーチャン記念は兵庫のココキュンキュン【各地の2歳重賞】

ラブミーチャン記念(11月19日、笠松、1,600^米、牝馬)は、2番手を追走した兵庫からの遠征馬ココキュンキュン(父エポカドーロ)が直線半ばで逃げ馬を捉え、1番人気に応じて重賞3連勝。ローレル賞(11月18日、川崎、1,600^米、牝馬)は、2番手から直線に入って間もなく先頭に立った1番人気のアンジュルナ(父ティズザロー)が4馬身差の楽勝を収めています。

●カスタンジャーらが参戦、12月24日の名古屋大賞典(名古屋)

名古屋大賞典(Jpn III、12月24日、名古屋、2,000^米)は、マーキュリーCの覇者カスタンジャー(58^{kg})が中心、以下デルマソトガケ(59^{kg})、レヴオントゥレット(57^{kg})、アピーリングルック(54^{kg})、高知のシンメデージー(56^{kg})の順に有力視されます。

●12月25日の兵庫ゴールドT(園田)はマテンロウコマンドが有力

兵庫ゴールドトロフィー(Jpn III、12月25日、園田、1,400^米)は、57^{kg}の3歳馬マテンロウコマンドが最有力、59^{kg}のサンライズフレイム、57^{kg}のハッピーマンが続き、59^{kg}のサンライズホーク、56^{kg}のスペシャルエックス(北海道)までが争覇圏内と考えられます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●香港国際競走〜日本調教馬は2着が最高

香港国際競走が現地12月14日に香港のシャティン競馬場で開催されました。今年は日本から7頭が出走しましたが未勝利に終わり、G 1香港マイル(3歳上、芝1,600^米)のソウルラッシュとG 1香港カップ(3歳上、芝2,000^米)のベラジオオペラの2着が最高の着順でした。4つのG 1を時系列で振り返ると、まずG 1香港ヴァーズ(3歳上、芝2,400^米)はフランスのソジー(牡4歳、父シーザスターズ、A. ファーブル厩舎)が優勝。M. ギュイヨン騎手を背に5、6番手で流れに乗り、直線半ばで先頭に立つと、最後は連覇がかかっていたジエヴェロットの追い上げを3/4馬身差退けました。G 1香港スプリント(3歳上、芝1,200^米)はカーインライジング(騾5歳、父シャムエクスペレス、D. ヘイズ厩舎)がZ. パートン騎手を背にハナを奪うと、直線で後続を楽に突き放して3馬身3/4差の完勝。このレース連覇を果たすと同時に、2024年2月から続く連勝を16に伸ばしました。G 1香港マイルはZ. パートン騎手が手綱を取ったヴォイッジパブル(騾7歳、父ディープフィールド、P. イウ厩舎)が道中2番手追走から直線で早めに先頭に立つと、いったんは前に出られたソウルラッシュを差し返して半馬身差で優勝。このレース連覇としました。そしてメインのG 1香港カップはロマンチックウォリアー(騾7歳、父アクラメーション、C. シャム厩舎)がJ. マクドナルド騎手とのコンビで3番手追走から直線で抜け出すと、最後はベラジオオペラに1馬身3/4差をつけて勝利。レース史上初の4連覇を達成しています(3連覇もロマンチックウォリアーだけ)。